

V 試験研究発表題名

平成 28 年度 試験研究発表題名一覧

1. 吉永秀一郎. 第 4 期中長期計画期間の開始にあたって. 森林総合研究所関西支所研究情報、120:1
2. 鳥居厚志. 竹を巡る課題と普及啓発の方途. 森林技術、891:2-6
3. 鳥居厚志. 竹検定「中級」問題. 京都竹カフェ第 5 回竹検定「中級」問題、1-9
4. 鳥居厚志. 竹検定「中級」解答と解説. 京都竹カフェ第 5 回竹検定「中級」解答と解説、1-10
5. 鳥居厚志. 邪魔な竹を駆除するために. 森林総合研究所関西支所研究情報、121:1
6. 鳥居厚志. 里山における竹林の拡大とその影響. 環境情報科学、45 (3) :12-17
7. 鳥居厚志. 竹の秋・竹の春. 農業日誌 平成 29 年 (農林統計協会編、616 頁)、pp.128-129
8. 鳥居厚志. 紀伊半島の林業. 日本ペドロロジー学会 2017 年度大会講演要旨集、29-32
9. 吉田貴紘、久保島吉貴、上川大輔、井上真理子、垂水亜紀、木口実、田中孝二郎 (株式会社アクトリー)、大藪吉郁 (三洋貿易株式会社). 林地残材等のトレファクション燃料化による高効率利用技術の確立. 平成 27 年度新たな木材需要創出総合プロジェクトのうち地域材利用促進のうち木質バイオマスの利用拡大 木質バイオマス加工・利用システム開発事業事業報告書、1-62
10. 吉田貴紘、久保島吉貴、上川大輔、垂水亜紀、井上真理子、木口実、田中孝二郎 (株式会社アクトリー)、増井芽 (株式会社アクトリー)、大藪吉郁 (三洋貿易株式会社)、五十嵐大徳 (三洋貿易株式会社)、小林明央 (三洋貿易株式会社). 高性能木質固形燃料「トレファクション燃料」の連続製造に成功. 森林総合研究所平成 28 年版研究成果選集、30-31
11. 垂水亜紀、山本伸幸. 近畿地方における薪の流通実態～滋賀県を中心として～. 第 67 回応用森林学会大会研究発表要旨集、12
12. 吉田貴紘、柳田高志、久保島吉貴、黒田克史、上川大輔、金子真司、三浦覚、古澤仁美、佐野哲也 (元森林総研特別研究員・東北工業大学)、垂水亜紀、井上真理子、木口実、大原誠資 (森林総研フェロー)、野村崇 (福井県総合グリーンセンター)、和多田浩樹 (福井県総合グリーンセンター)、田中孝二郎 (株式会社アクトリー)、増井芽 (株式会社アクトリー)、大藪吉郁 (三洋貿易株式会社)、五十嵐大徳 (三洋貿易株式会社)、小林明央 (三洋貿易株式会社). 次世代炭焼き技術「トレファクション」による高性能木質固形燃料の開発. 森林総合研究所第 3 期中期計画成果集、36-37
13. 垂水亜紀. 中山間地域の広葉樹にはどのような需要があるのか?. 森林総合研究所関西支所研究情報、122:1
14. 細田育広. 林地土壌表層における地中熱流量の季節変動. 2016 年度水文・水資源学会研究発表会要旨集 :174-175
15. 細田育広、谷誠 (人間環境大学). 古生層堆積岩小流域の厚い風化基岩層における水分変動が降雨流出応答に及ぼす影響. 地形、37 (4) :465-492
16. 細田育広. 基盤事業：森林水文モニタリングー竜ノ口山森林理水試験地ー. 森林総合研究所関西支所年報、57:35
17. 細田育広. 竜ノ口山における 1980 年マツ枯れ以降の樹木生長に伴う流況変動の傾向. 128 回日本森林学会大会学術講演集、279
18. 池田敬 (北海道大学)、児玉大夢 (酪農学園大学)、松浦友紀子、高橋裕史、東谷宗光 (エゾシカ協会)、丸智明 (酪農学園大学)、吉田剛司 (酪農学園大学)、伊吾田宏正 (酪農学園大学). ニホンジカの効率的な捕獲に向けた醤油の選択効果の検証. 哺乳類科学、56:47-52

19. FURUSAWA Hitomi (古澤仁美)、HINO Teruaki (日野輝明・名城大学)、TAKAHASHI Hiroshi (高橋裕史)、KANEKO Shinji (金子真司). Nitrogen leaching from surface soil in a temperate mixed forest subject to intensive deer grazing (ニホンジカによる強度の採食を受けた針広混交林における表層土壌からの窒素リーチング). *Landscape and Ecological Engineering*, 12 (2):223-230
20. 高橋裕史、松浦友紀子、伊吾田宏正 (酪農大)、池田敬 (国総研)、東谷宗光 (エゾシカ協会). ニホンジカ低密度実現・維持に向けた課題 その2. 日本哺乳類学会 2016 年度大会プログラム・講演要旨集、65
21. 上野真由美 (道総研環境研)、飯島勇人 (山梨森林総研)、竹下和貴 (農工大)、高橋裕史、吉田剛司 (酪農大)、上原裕世 (酪農大)、伊吾田宏正 (酪農大)、松浦友紀子、池田敬 (国総研)、東谷宗光 (エゾシカ協会)、梶光一 (農工大). 高密度ニホンジカ個体群の不安定な動態: 密度と冬季気象の影響. 日本哺乳類学会 2016 年度大会プログラム・講演要旨集、80
22. 七條知也 (酪農大)、伊吾田宏正 (酪農大)、松浦友紀子、高橋裕史、池田敬 (農工大)、東谷宗光 (エゾシカ協会)、梶光一 (農工大)、吉田剛司 (酪農大). 北海道洞爺湖中島エゾシカ個体群における枝角の発達成長について. 日本哺乳類学会 2016 年度大会プログラム・講演要旨集、188
23. TAKESHITA Kazutaka (竹下和貴・農工大)、IKEDA Takashi (池田敬・国総研)、TAKAHASHI Hiroshi (高橋裕史)、YOSHIDA Tsuyoshi (吉田剛司・酪農大)、IGOTA Hiromasa (伊吾田宏正・酪農大)、MATSUURA Yukiko (松浦友紀子)、KAJI Koichi (梶光一・農工大). Comparison of drive counts and mark-resight as methods of population size estimation of highly dense sika deer (*Cervus nippon*) populations (ニホンジカ高密度個体群の個体数推定方法としての追い出し法とマークリサイト法の比較). *PLoS ONE*, e0164345. doi: 10.1371/journal.pone.0164345
24. 池田敬 (北大)、内田健太 (北大)、松浦友紀子、高橋裕史、吉田剛司 (酪農大)、梶光一 (農工大)、小泉逸郎 (北大). Seasonal and diel activity patterns of eight sympatric mammals in northern Japan revealed by an intensive camera-trap survey (カメラトラップ調査により明らかにされた北日本で同所的に生息する 8 種の哺乳類における日周活動性の季節変化). *PLOS ONE*, 11 (10):e0163602
25. TOBITA Hiroyuki (飛田博順)、KUCHO Ken-ichi (九町健一・鹿児島大)、SHIBATA Mitsue (柴田鏡江)、IMAYA Akihiro (今矢明宏)、KABEYA Daisuke (壁谷大介)、SAITO Tomoyuki (齋藤智之)、OKAMOTO Toru (岡本透)、ONO Kenji (小野賢二)、MORISADA Kazuhito (森貞和仁). Variation of foliar $\delta^{15}N$ natural abundance in *Alnus* species regenerated at different altitude after a massive landslide on Mt. Ontake in central Japan (御嶽山の大規模岩屑流跡の異なる標高に天然更新したハンノキ属樹種の葉の窒素安定同位体比の変動). Abstracts of the 10th international conference on the applications of stable isotopes to ecological studies, 152
26. 池田重人、志知幸治、岡本透、若松伸彦 (横浜国立大学). 栗駒山稜岳の山地帯上部～亜高山帯域における約 5000 年前以降の森林変遷. 日本花粉学会第 57 回大会講演要旨集、32
27. 岡本透. 古地図から読み解く百年で移り変わる山の風景. 平成 28 年度日本農学会シンポジウム講演要旨、:7-10
28. 池邊茉莉 (鹿児島大・院理工)、中島沙映 (鹿児島大・理)、山元巧 (鹿児島大・理)、柴田鏡江、今矢明宏、壁谷大介、齋藤智之、岡本透、小野賢治、森貞和仁、飛田博順、九町健一 (鹿児島大・院理工). 山崩れによりかく乱された御嶽山における根粒と根圏土壌中のフランキアの群集構造. 日本微生物生態学会第 31 回大会、298
29. SHICHI Koji (志知幸治)、IKEDA Shigeto (池田重人)、OKAMOTO Toru (岡本透) HAYASHI Ryoma (林竜馬・滋賀県立琵琶湖博物館). Climate and human influences to change of Japanese cedar forest in the northern region of Sea of Japan since the Holocene. (完新世以降の北部日本海地域のスギ林変遷に及ぼした気候および人為影響). XIV International Palynological Congress - X International Organisation of Palaeobotany Conference, 304-305

30. 志知幸治、池田重人、岡本透、林竜馬（滋賀県立琵琶湖博物館）。完新世における東北地方北部のスギ分布域の拡大。日本花粉学会第 57 回大会講演要旨集、31
31. 岡本透、伊藤優子。2014 年 9 月に噴火した御嶽山の噴出物が渓流水水質に与える影響。第 14 回環境研究シンポジウム資料、42
32. 岡本透。基盤事業：森林流域の水質モニタリング。森林総合研究所関西支所年報、57:36
33. 池田重人、志知幸治、岡本透、林竜馬（滋賀県立琵琶湖博物館）。花粉記録と林政史資料に基づく秋田天然スギ林地帯における中世以降のスギの減少。日本森林学会大会学術講演集、128:P2-057
34. 岡本透、齋藤智之。ササの一斉開花の周期は何年なのか？－木曾およびその周辺地域の歴史資料から分かったこと－。第 128 回日本森林学会大会学術講演集、P2-072:242
35. 稲垣善之、宮本和樹、奥田史郎、野口麻穂子、伊藤武治。高知県の標高の異なるヒノキ林における窒素利用様式。地球惑星科学連合大会 2016 年大会、MIS06-11
36. NOGUCHI Mahoko（野口麻穂子）、MIYAMOTO Kazuki（宮本和樹）、OKUDA Shiro（奥田史郎）、ITOU Takeharu（伊藤武治）、SAKAI Atsushi（酒井敦）。Heavy thinning in hinoki plantations in Shikoku (southwestern Japan) has limited effects on recruitment of seedlings of other tree species（四国のヒノキ人工林における強度間伐が他樹種の稚樹の更新に及ぼす効果は限定的である）。Journal of Forest Research、21（3）:131-142
37. 稲垣善之、酒井寿夫、森下智陽、奥田史郎。市の又・鷹取山試験地における針葉樹人工林の成長。森林総合研究所四国支所年報、57:26-31
38. 宮本和樹、奥田史郎、野口麻穂子、伊藤武治、酒井敦。ヒノキ人工林における強度間伐後の落葉量の経年変化。森林総合研究所四国支所年報、57:23-24
39. 宇都木玄、飛田博順、壁谷大介、陣川雅樹、原山尚徳、上村章、八木橋勉、奥田史郎、重永英年、松田修（九州大学）、大矢信次郎（長野県）。コンテナ苗を利用した一貫作業で再生林の低コスト化へ挑戦。森林総合研究所第 3 期中期計画成果集、6-7
40. 稲垣善之、宮本和樹、奥田史郎、野口麻穂子、伊藤武治。地形の異なるヒノキ林における樹冠葉量の推定。日本生態学会大会講演要旨集、64:P2-Q-460
41. 中西麻美（京都大）、稲垣善之、宮本和樹、奥田史郎、荒木眞岳、深田英久（高知県森技セ）、柴田昌三（京都大）。気温と土壌条件がヒノキの葉寿命に及ぼす影響。日本森林学会学術講演集、128: P2-118
42. 伊藤崇之、上村巧、佐々木達也、江崎功二郎（石川県農林総合研究センター林業試験場）、大場寛文（鳥根県中山間地域研究センター）、奥田史郎。放置竹林駆除作業の能率とコスト。日本森林学会大会学術講演集、128:PR0830
43. 奥田史郎、山下直子、中尾勝洋、諏訪錬平、田中真哉、高橋裕史、加藤顕（千葉大学園芸学部）、宮浦富保（龍谷大学理工学部）。滋賀県落葉広葉樹二次林に優占するコナラの用途別材積の推定。第 128 回日本森林学会大会学術講演集、P2-134
44. HOSHIZAKI Kazuhiko（星崎和彦・秋田県立大学）、NOGUCHI Mahoko（野口麻穂子）、MATSUSHITA Michinari（松下通也）、SHIBATA Mitsue（柴田鏡江）、HOSHINO Daisuke（星野大介）、TAKAHASHI Kazunori（高橋和規）、OSUMI Katsuhiko（大住克博・鳥取大学）、SUZUKI Wajiro（鈴木和次郎・只見町ブナセンター）、MASAKI Takashi（正木隆）。A quarter-century monitoring of reproductive investment in major tree species in a temperate forest, northern Japan（北日本の温帯林における主要樹種の繁殖投資に関する四半世紀にわたるモニタリング）。ILTER 1st Open Science Meeting、Population Dynamics4

45. 高橋和規, Garret D. Ruiz (UPLB). トウダイグサ科オオバギの発芽特性—ルソン島中部と北部個体群の比較—. 日本植物分類学会第 16 回大会研究発表要旨集, 16:44
46. YAMASHITA Naoko (山下直子), OKUDA Shiro (奥田史郎), SUWA Rempei (諏訪鍊平), Thomas Ting Lei (龍谷大学), TOBITA Hiroyuki (飛田博順), UTSUGI Hajime (宇都木玄), KAJIMOTO Takuya (梶本卓也). Impact of leaf removal on initial survival and growth of container-grown and bare-root seedlings of Hinoki cypress (*Chamaecyparis obtusa*). (摘葉がヒノキコンテナ苗と裸苗の初期活着と成長に与える影響). *Forest Ecology and Management*, 370:76-82
47. Thomas Ting Lei (龍谷大学), NISHIKAWA Naoki (西川尚貴・龍谷大学), YAMASHITA Naoko (山下直子). Park pruning prompts a competitive reversal of an exotic tree, *Ligustrum lucidum*, in urban forests of Japan Urban Ecosystems. (外来種トウネズミモチの侵略性が人為的刈り払いによって高まった). *Urban Ecosystems*, 19:1103-1118
48. 山下直子, 奥田史郎, 池田則男 (近畿中国森林管理局森林技術・支援センター), 細川博之 (近畿中国森林管理局森林技術・支援センター). ヒノキ苗の初期活着率と成長に対する摘葉の効果について. 平成 28 年度森林・林業交流研究発表集録, 161-164
49. 山下直子, 飛田博順, 宇都木玄, 奥田史郎, Thomas Ting Lei (龍谷大学), 矢崎健一, 梶本卓也. ヒノキコンテナ苗における灌水停止後の水ポテンシャルの変化—キャビティ容量 150cc と 300cc の比較—. 日本森林学会大会学術講演集, 128:247
50. 山下直子. 葉を摘みとると苗木が活着しやすくなる. 季刊森林総研, 36:18-19
51. 山下直子, 奥田史郎, 田中真哉, 高橋裕史, 中尾勝洋, 諏訪鍊平, 吉永秀一郎. 滋賀県東近江市における広葉樹二次林の林分構造を規定する要因の検討. 日本生態学会第 64 回全国大会講演要旨, P2-B-050
52. 飛田博順, 山下直子, 宇都木玄, 奥田史郎, Thomas Ting Lei (龍谷大・理工), 矢崎健一, 梶本卓也. キャビティ容量の異なるスギコンテナ苗の灌水停止後の水ポテンシャルの変化. 第 128 回日本森林学会大会学術講演集, 247
53. 諏訪鍊平. 琉球列島におけるマングローブの構造と生産力から推察される緯度の効果. 日本地球惑星科学連合 2016 年大会学術講演集, ACG15-01
54. 大谷達也, アドリアーノ・リマ (INPA), 諏訪鍊平, 大橋伸太, 梶本卓也, ニーロ・ヒグチ (INPA), 石塚森吉 (JIFPRO). ブラジル・中央アマゾンの択伐林におけるバイオマスの回復. 海外の森林と林業, 96:16-21
55. 諏訪鍊平, 奥田史郎, 山下直子, 大原偉樹, 奥田裕規, 池田則男 (近中局技セン), 細川博之 (近中局技セン). 植栽時期の異なるヒノキコンテナ苗の活着と成長. 日本森林学会誌, 98:176-179
56. 諏訪鍊平, Fernando da SILVA (INPA), LIMA Jose Nogueira Adriano (INPA), Alberto Carlos Martins PINTO (INPA), Joaquim dos SANTOS (INPA), 梶本卓也, 石塚森吉 (JIFPRO), Niro HIGUCHI (INPA). Changes in Forest Structure and Biomass over Ten Years in a Lowland Amazonian Forest (アマゾン低地林における森林構造とバイオマスの 10 年間に伴う変化). *JARQ-Japan Agricultural Research Quarterly*, 50:379-386
57. 石塚森吉 (国際緑化推進センター), 澤田義人 (国立環境研究所), 諏訪鍊平, 梶本卓也, 遠藤貴宏 (リモートセンシング技術センター), 沢田治雄. ブラジル・アマゾンの森林の炭素蓄積量推定の現状とブラジルの参照レベル. 海外の森林と林業, 96:10-15
58. 梶本卓也, 野口英之, 佐藤保, 大橋伸太, 諏訪鍊平, 大谷達也, 石塚森吉 (国際緑化推進センター), 沢田治雄 (現森林総合研究所), 澤田義人 (東京大学), 神藤恵司 (東京大学), 遠藤貴宏 (リモートセンシング技術センター). アマゾンの森林炭素量を高精度で測る. 森林総合研究所第 3 期中期計画成果集, 50-51

59. Niro HIGUCHI (INPA)、諏訪鍊平、Francisco G. HIGUCHI (INPA)、Adriano J.N. LIMA (INPA)、Joaquim dos SANTOS (INPA)、野口英之(アジア航測)、梶本卓也、石塚森吉 (JIFPRO). Overview of Forest Carbon Stocks Study in Amazonas State, Brazil (ブラジルアマゾン州における森林炭素蓄積に関する研究の概要). *Interactions Between Biosphere, Atmosphere and Human Land Use in the Amazon Basin*, 171-187
60. 諏訪鍊平、奥田史郎、山下直子、中尾勝洋、池田則男(近中局技セン)、細川博之(近中局技セン). ヒノキコンテナ苗の成長に及ぼす競合植生の影響. 第128回日本森林学会大会学術講演集、P2-103
61. MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、HIRATA Akiko (平田晶子)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、OHASHI Haruka (大橋春香・森林総研PD)、TANAKA Nobuyuki (田中信行・東京農業大学)、NAKAMURA Katsunori (中村克典). Predicting pine wilt disease spreading under the climate change in East Asia (東アジアにおける気候変化に対する松枯れ分布拡大の予測). *The 7th EAFES International Congress (Abstract Book)*, p.229
62. MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、NAKAZONO Etsuko (中園悦子・東京大学)、TSUYAMA Ikutaro (津山幾太郎)、HIGA Motoki (比嘉基紀・高知大学)、KOIDE Dai (小出大・国立環境研究所)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、TANAKA Nobuyuki (田中信行・東京農業大学). Climate change impact assessment, monitoring and adaptation plans for Japanese natural forests (日本の天然林における気候変化に対する影響評価、モニタリングおよび適応策). *The 7th EAFES International Congress (Abstract Book)*, p.266
63. KOIDE Dai (小出大・国立環境研究所)、HIGA Motoki (比嘉基紀・高知大学)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、OHASHI Haruka (大橋春香・森林総研PD)、TSUYAMA Ikutaro (津山幾太郎)、MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、TANAKA Nobuyuki (田中信行・東京農業大学). Spatiotemporal projection of suitable climatic conditions for tree regeneration and growth using niche differences between adult and juvenile trees (成木と幼木のニッチの違いを考慮した更新に適した気候条件の時空間変化予測). *The 7th EAFES International Congress (Abstract Book)*, p.265
64. 中尾勝洋. 地球温暖化での森林の適応策－ブナ天然林を事例として－. 季刊森林総研、33:18-19
65. 田中信行(農大)、井関智裕(東京植生研究会)、北村系子、齋藤均(黒松内町)、津山幾太郎、中尾勝洋、松井哲哉. 北海道におけるブナの潜在生育域と分布北限個体群の実態. 森林立地、51 (1):9-15
66. OHASHI Haruka (大橋春香・森林総研PD)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、HIGA Motoki (比嘉基紀・高知大学)、KOIDE Dai (小出大・国立環境研究所)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、TSUYAMA Ikutaro (津山幾太郎)、MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、TANAKA Nobuyuki (田中信行・東京農業大学). Land abandonment and changes in snow cover period accelerate range expansions of sika deer (土地利用放棄と積雪期間の時間変化がシカの分布拡大を助長する). *Ecology and Evolution*, DOI: 10.1002/ece3.2514
67. 高麗秀昭、渡辺憲、中尾勝洋、林知行(秋田県立大学木材高度加工研究所). 一般化線形モデルによる屋外暴露したパーティクルボードの曲げ強さの解析. 日本木材加工技術協会第34回年次大会(宮崎)講演要旨集、p.21-22
68. 中尾勝洋. 地球温暖化に対する自然生態系・森林の適応策～ブナを事例として. 森林総合研究所関西支所研究情報、No.123
69. 田中信行(農大)、北村系子、津山幾太郎、中尾勝洋、松井哲哉、井関智裕(東京植生研究会)、齋藤均(黒松内町). ブナの潜在生育域の気候条件と分布北限個体群の実態. 第64回日本生態学会大会、P2-O-423

70. Cindy Q. Tang (Yunnan University)、Yi-Fei Dong (Yunnan University)、Sonia Herrando-Moraira (Botanic Institute of Barcelona)、MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、OHASHI Haruka (大橋春香・森林総研 PD)、Long-Yuan He (Kunming Institute of Forestry Exploration and Design, the State Forestry Administration of China)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、TANAKA Nobuyuki (田中信行・東京農業大学)、TOMITA Mizuki (富田瑞樹・東京情報大学)、Xiao-Shuang Li (Yunnan Academy of Forestry)、Hai-Zhong Yan (Yunnan University)、Ming-Chun Peng (Yunnan University)、Jun Hu (Chinese Academy of Sciences)、Ruo-Han Yang (Yunnan University)、Wang-Jun Li (Yunnan University)、Kai Yan (Chinese Academy of Sciences)、Xiuli Hou (Kunming University)、Zhi-Ying Zhang (Yunnan University)、Jordi Lopez-Pujol (Botanic Institute of Barcelona). Potential effects of climate change on geographic distribution of the Tertiary relict tree species *Davidia involucrata* in China (第三紀遺存植物ハンカチノキ (*Davidia involucrata*) の地理的分布に対する気候変動の潜在的な影響). Scientific Reports、DOI: 10.1038/srep43822
71. 松井哲哉、平田晶子 (森林総研非常勤職員)、中尾勝洋、小南裕志、田中信行 (農大)、大橋春香 (森林総研 PD)、高野宏平 (森林総研 PD)、竹内渉 (東大)、中村克典. 気候変動によりマツ材線虫病リスク域は全球スケールで拡大するか?. 日本生態学会第 64 回全国大会講演要旨、P2-G-228
72. 高野 (竹中) 宏平 (元森林総研 PD、現長野県環境保全研)、大塚孝一 (長野県環境保全研)、尾関雅章 (長野県環境保全研)、津山幾太郎、中尾勝洋、田中信行 (東京農大)、松井哲哉. 林床植物ベニシダ (*Dryopteris erythrosora*、オシダ科) の長野県における分布拡大に対する気候変動影響の検出. 第 128 回森林学会講演要旨集、P2-086
73. 高野 (竹中) 宏平 (森林総研 PD)、中尾勝洋、松井哲哉、尾関雅章 (長野県環境保全研究所)、堀田昌伸 (長野県環境保全研究所)、須賀丈 (長野県環境保全研究所). 気候変動を考慮した保護区と生物の移動経路 (コリドー) 候補地の抽出にむけて. 第 64 回日本生態学会大会、T05-3
74. 藤井佐織 (横浜国大院・環境情報)、森章 (横浜国大院・環境情報)、小南裕志、田和佑脩 (同志社大・理工)、稲垣善之、高梨聡、武田博清 (同志社大・理工). Differential utilization of root-derived carbon among collembolan species (トビムシ種による異なった根起源炭素の利用). Pedobiologia、59 (4):225-227
75. 小南裕志、山野井克己、北村兼三、深山貴文、溝口康子、高梨聡、三枝信子 (国環研)、高橋善幸 (国環研)、KIM Wonsik (農環研)、宮田明 (農環研)、小野啓介 (農環研)、石戸谷重 (産総研)、近藤宏明 (産総研)、前田貴久 (産総研)、村山昌平 (産総研)、PANUTHAI Samreong (タイ自然環境局)、ARCHAWAKOM Taksin (タイ科学技術院). Network connection of tower flux measurement data: Toward long term stable flux measurement (フラックス測定データのネットワーク化ー長期安定観測に向けてー). JPGU (地球惑星連合) 2016 講演予稿集、AAS01-12
76. 溝口康子、山野井克己、安田幸生、大谷義一、渡辺力 (北海道大学)、小南裕志. 植物が光合成に利用可能な光の量の新たな推定法. 森林総合研究所 平成 28 年度版 研究成果選集、36-37
77. 深山貴文、山野井克己、溝口康子、安田幸生、野口宏典、小南裕志、北村兼三、森下智陽、安宅未央子 (森林総研 PD)、吉村謙一 (京大農)、松本一穂 (琉大農)、高梨聡、和田龍一 (帝京科学大生命環境)、吉藤奈津子、岡野通明. 多様な森林に立地するフラックスタワー群を用いた BVOC 観測ネットワークの概要. 第 57 回大気環境学会年会講演要旨集、308
78. KITAO Mitsutoshi (北尾光俊)、YASUDA Yukio (安田幸生)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、YAMANOI Katsumi (山野井克己)、KOMATSU Masabumi (小松雅史)、MIYAMA Takafumi (深山貴文)、MIZOGUCHI Yasuko (溝口康子)、KITAOKA Satoshi (北岡哲・森林総研 PD)、YAZAKI Kenichi (矢崎健一)、TOBITA Hiroyuki (飛田博順)、YOSHIMURA Kenichi (吉村謙一・森林総研 PD)、KOIKE Takayoshi (小池孝良・北海道大学)、IZUTA Takeshi (伊豆田猛・東京農工大学). Increased phytotoxic O₃ dose accelerates autumn senescence in an O₃-sensitive beech forest even under the present-level O₃ (オゾン感受性が高いブナの林では現在のオゾン濃度でもオゾン吸収量の増加によって秋の葉の老化が促進される). Scientific Reports、6:32549 (DOI: 10.1038/srep32549)

79. OHASHI Haruka (大橋春香・森林総研 PD)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、HIGA Motoki (比嘉基紀・高知大学)、KOIDE Dai (小出大・国立環境研究所)、NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、TSUYAMA Ikutaro (津山幾太郎)、MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、TANAKA Nobuyuki (田中信行・東京農業大学). Land abandonment and changes in snow cover period accelerate range expansions of sika deer (土地利用放棄と積雪期間の時間変化がシカの分布拡大を助長する). *Ecology and Evolution*, DOI: 10.1002/ece3.2514
80. TAKANASHI Satoru (高梨聡)、DANNOURA Masako (檀浦正子・京都大学)、NAKANO Takashi (中野隆志・山梨県富士山科学研究所)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、MIYAMA Takafumi (深山貴文). Seasonality of carbon flow in a pine tree estimated using in situ ¹³C pulse-labeling method. *IUFRO Regional Congress for Asia and Oceania 2016*, 354
81. 小南裕志、深山貴文、安宅未央子 (学振 PD)、吉村謙一 (京大農)、檀浦正子 (京大農)、上村真由子 (日大生物資源). Longterm estimation of carbon balance for a warm temperate mixed forest in Japan (日本の暖温帯混交林における炭素収支の長期推定). *IUFRO (国際森林学会) 2016 講演予稿集*, AAS01-12
82. 植山雅史 (大阪府大農)、義川滉太 (大阪府大農)、高橋善幸 (国環研)、高木健太郎 (北大農)、小南裕志. Methane fluxes at upland forests in Japan based on the micrometeorological and chamber methods (日本の森林におけるメタンフラックスの微気象学およびチャンバー法測定). *AGU (米国地球物理学連合) 2016fall meeting 講演予稿集*, B23E-0641
83. KITAO Mitsutoshi (北尾光俊)、YASUDA Yukio (安田幸生)、KOMATSU Masabumi (小松雅史)、KITAOKA Satoshi (北岡哲・森林総研 PD)、YAZAKI Kenichi (矢崎健一)、TOBITA Hiroyuki (飛田博順)、YOSHIMURA Kenichi (吉村謙一・森林総研 PD)、MIYAMA Takafumi (深山貴文)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、MIZOGUCHI Yasuko (溝口康子)、YAMANOI Katsumi (山野井克己)、KOIKE Takayoshi (小池孝良・北海道大学)、IZUTA Takeshi (伊豆田猛・東京農工大学). Flux-Based O₃ Risk Assessment for Japanese Temperate Forests (日本の温帯林における吸収量ベースのオゾンリスク評価). *Air Pollution Impacts on Plants in East Asia*, DOI: 10.1007/978-4-431-56438-6
84. 孫麗娟 (京大農)、小南裕志、吉村健一 (京大農)、北山兼弘 (京大農). Root-exudate flux variations among four co-existing canopy species in a temperate forest, Japan (日本の温帯林における4樹種の根浸出物フラックス). *Ecological Research*, doi:10.1007/s11284-017-1440-9
85. 山本遼平 (京都大学大学院地球環境学舎)、吉川彬 (京都大学大学院地球環境学舎)、檀浦正子 (京都大学大学院地球環境学舎)、吉村謙一 (京都大学農学部)、小野田雄介 (京都大学農学部)、衣浦晴生、小南裕志. 京都府南部の落葉広葉樹林におけるナラ枯れ被害が生態系に与える影響の評価 - (1) ナラ枯れ被害の進行と空間分布特性 -. 第128回森林学会大会要旨集, P1-096
86. 山本遼平 (京大院・地球環境)、檀浦正子 (京大院・地球環境)、小南裕志、衣浦晴生、吉村謙一 (京大院・農). ナラ枯れ罹患木の生残機構 - 生残木と枯死木の樹液流特性比較 -. 第64回日本生態学会大会講演集, P1-Q-450
87. 吉村謙一 (京大・農)、小南裕志、安宅未央子 (学振 PD)、孫麗娟 (京大・農). 幹呼吸速度の日変化・季節変化に対する葉群光合成依存性 - 落葉樹コナラと常緑樹アラカシの比較から. 第64回日本生態学会大会講演集, F01-04
88. 祐安孝幸 (大阪府立大)、植山雅仁 (大阪府立大)、安藤智也 (大阪府立大)、小杉緑子 (京都大)、小南裕志. 人工衛星データを用いた近畿圏における広域地表面熱収支の評価. 日本農業気象学会 2017 全国大会講演予稿集, J-32
89. 小南裕志、山本遼平 (京大院地球環境)、吉村謙一 (京大農)、安宅未央子 (学振 PD)、檀浦正子 (京大農)、衣浦晴生. 京都府南部の落葉広葉樹林におけるナラ枯れ被害が生態系に与える影響の評価 - (2) 枯死木の発生が炭素循環に与える影響 -. 第128回森林学会大会要旨集, P1-97

90. TANIKAWA Toko (谷川東子)、IKENO Hidetoshi (池野英利・兵庫県立大)、DANNOURA Masako (檀浦正子・京都大)、YAMASE Keitarou (山瀬敬太郎・兵庫県森林セ)、AONO Kenji (青野健治・環境総合テクノス)、HIRANO Yasuhiro (平野恭弘・名古屋大). Leaf litter thickness, but not plant species, can affect root detection by ground penetrating radar (落葉層の厚みは地中レーダ法による樹木根の検出に影響し、樹種の違いは影響を与えない). *Plant and Soil*, DOI 10.1007/s11104-016-2931-0
91. 佐瀬裕之 (アジア大気汚染研究センター)、高橋正通、松田和秀 (農工大)、佐藤啓市 (アジア大気汚染研究センター)、谷川東子、山下尚之、大泉毅 (新潟県)、石田卓也 (名古屋大)、上迫正人 (アジア大気汚染研究センター)、小林亮 (アジア大気汚染研究センター)、内山重輝 (アジア大気汚染研究センター)、齋藤辰善 (アジア大気汚染研究センター)、諸橋将雪 (アジア大気汚染研究センター)、福原晴夫 (新潟大学)、金子真司、井上隆信 (豊橋技科大)、山田俊郎 (岐阜大)、竹中千里 (名古屋大)、陀安一郎 (地球研)、中野孝教 (地球研)、袴田共之 (浜松ホトニクス)、太田誠一 (国際緑化推進センター). 中部日本の森林集水域における河川化学性と大気由来の硫黄の動態. 日本地球惑星科学連合 2016 年大会予稿集、HTT21-04
92. KASAHARA Michiru (笠原暢・横浜国大)、FUJII Saori (藤井佐織・横浜国大)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、MORI Akira (森章・横浜国大). Ungulates decelerate litter decomposition by altering litter quality above and below ground (有蹄類は、リターの質的变化を地表と地下部で起こすことで、リター分解速度を低下させる). *European Journal of Forest Research*, DOI: 10.1007/s10342-016-0978-3
93. 平井敬三、大貫靖浩、野口享太郎、三浦覚、山田毅、谷川東子、稲垣昌宏. 森林の持続性を物質循環の指標から評価する. 平成 28 年版研究成果選集、2016:8-9
94. 谷川東子、山下尚之、山下満 (兵庫工技センター)、福島整 (物質材料研究機構)、杉山暁史 (京大生存研)、石井弘明 (神戸大院農)、溝口岳男、平野恭弘 (名古屋大)、伊藤嘉昭 (京大化研). スギ・ヒノキ混交林における Ca・Mg・K の土壌中空間分布. 日本土壌肥料学会講演要旨集、62:13
95. 土居龍成 (名古屋大)、宮谷紘平 (名古屋大)、谷川東子、平野恭弘 (名古屋大). ヒノキ細根次数の種内特性. 第 45 回根研究集会プログラム・要旨集、16
96. 平野恭弘 (名古屋大)、所千恵 (名古屋大)、谷川東子、山瀬敬太郎 (兵庫県森林セ)、藤堂千景 (兵庫県森林セ)、大橋瑞江 (兵庫県立大)、檀浦正子 (京都大)、宮谷紘平 (名古屋大)、土居龍成 (名古屋大)、池野英利 (兵庫県立大). 地中探査用レーダを用いたクロマツ水平根の予測位置と根系検出精度. 第 45 回根研究集会プログラム・要旨集、15
97. 和田竜征 (名古屋大)、土居龍成 (名古屋大)、谷川東子、平野恭弘 (名古屋大). スギの細根形態特性—分岐構造を示す次数根に着目して—. 第 6 回中部森林学会大会プログラム・講演要旨集、20
98. 土居龍成 (名古屋大)、和田竜征 (名古屋大)、谷川東子、平野恭弘 (名古屋大). 東海地方 7 林分におけるヒノキ細根の次数別形態特性. 第 6 回中部森林学会大会プログラム・講演要旨集、20
99. HIRANO Yasuhiro (平野恭弘・名古屋大)、TANIKAWA Toko (谷川東子)、MAKITA Naoki (牧田直樹・信州大). Biomass and morphology of fine roots in eight *Cryptomeria japonica* stands in soils with different acid-buffering capacities (土壌酸緩衝能の異なるスギ林における細根のバイオマスと形態). *Forest Ecology and Management*, online available, 384: 122-131
100. 牧田直樹 (信州大学)、杉山暁史 (京都大学)、鈴木史郎 (京都大学)、谷川東子. 樹木根を介した植物—土壌フィードバックの解明 ~根滲出物の樹種特異性を探る~. 第 335 回生存圏ミッションシンポジウム、14
101. 谷川東子、平野恭弘 (名古屋大)、宮谷紘平 (名古屋大)、土居龍成 (名古屋大)、SUN LIJUAN (京都大)、溝口岳男、藤井佐織 (アムステルダム自由大学). スギ・ヒノキを用いた葉と根の分解過程の比較—溶脱炭素量に着目して—. 第 64 回日本生態学会大会、P2-N-394

102. 谷川東子、真家永光(北里大学)、平野恭弘(名古屋大)、宮谷紘平(名古屋大)、土居龍成(名古屋大)、孫麗娟(京都大)、溝口岳男、藤井佐織(アムステルダム自由大学)。葉と根の分解過程で溶脱するもの—スギヒノキの場合—。第128回日本森林学会大会、94:273
103. 和田竜征(名古屋大)、谷川東子、土居龍成(名古屋大)、平野恭弘(名古屋大)。スギ4林分における細根次数形態と表層土壌化学特性。第128回日本森林学会大会、94:143
104. 土居龍成(名古屋大)、谷川東子、和田竜征(名古屋大)、平野恭弘(名古屋大)。異なる土壤環境におけるヒノキ末端次数根形態の変動—東海地方7林分において—。第128回日本森林学会大会、94:143
105. 藤堂千景(兵庫県森林セ)、山瀬敬太郎(兵庫県森林セ)、谷川東子、大橋瑞江(兵庫県立大)、池野英利(兵庫県立大)、檀浦正子(京都大)、平野恭弘(名古屋大)。樹木の根鉢と根系構造の関係。第128回日本森林学会大会、94:142
106. 大橋瑞江(兵庫県立大)、鬮橋心(兵庫県立大)、池野英利(兵庫県立大)、藤堂千景(兵庫県森林セ)、山瀬敬太郎(兵庫県森林セ)、谷川東子、檀浦正子(京都大)、富田隆弘(兵庫県立大)、平野恭弘(名古屋大)。地中レーダ法を用いたクロマツ根系の検出と再構築。第128回日本森林学会大会、94:142
107. 多田泰之。孫も使える丈夫な道を目指して。森林総合研究所関西支所研究情報、121:2-3
108. 相川拓也、堀野眞一、市原優。シカとカモシカの糞をすばやく識別。平成28年版研究成果選集2016、54-55
109. 升屋勇人、市原優、相川拓也、高橋由紀子(森林総研PD)、窪野高德。スギ黒点病菌 *Sydowia japonica* の潜在分布予測。日本菌学会第60回大会要旨、p.67
110. 市原優、大原偉樹。コウヤマキ・ヒノキ林における自然落下種子の菌害率。応用森林学会大会研究発表要旨集、67:22
111. 相川拓也、堀野眞一、市原優。「ニホンジカ・カモシカ識別キット」の開発。日本森林学会大会学術講演集、128: ページ未定
112. 相川拓也、市原優、升屋勇人、安佛尚志(産総研・生物プロセス)、前原紀敏、中村克典。ピロウドカミキリにおける細胞内共生細菌の解析。日本応用動物学会大会講演要旨、61: ページ未定
113. 市原優、大原偉樹、升屋勇人。コウヤマキの天然更新における種子と実生の消失に関与する菌害。日本生態学会大会、64:P2-M-375
114. 柏木晴香(名古屋大・院・生命農・森林保護)、市原優、木下峻一(ウィーン大・古生物)、佐々木理(東北大・博物館)、梶村恒(名古屋大・院・生命農・森林保護)。森林性ネズミの虫害堅果選択メカニズムを検証する—GC/MSとCTスキャンを駆使した供試実験—。日本生態学会大会、64:P2-I-281
115. 市原優、松永孝治。マツノザイセンチュウを接種したクロマツ家系間の抗菌物質集積の差異。日本森林学会研究発表要旨集、128:L14
116. 深山貴文、森下智陽、奥村智憲、宮下俊一郎、高梨聡、吉藤奈津子。アカマツ林床における α -ピネン放出の空間分布特性(Spatial variation in α -pinene emission from soils in a red pine forest)。日本森林学会誌、98(2):59-64
117. 深山貴文、高梨聡、岡野道明、吉藤奈津子、森下智陽、宮下俊一郎。富士北麓の冷温帯アカマツ林における揮発性有機化合物濃度の日変動特性。日本農業気象学会2017年全国大会講演要旨、147
118. YOSHIMURA Mayumi(吉村真由美)。Preference for conifer and broadleaf vegetation in adults of *Kamimuria tibialis* (Plecoptera) under the laboratory conditions(カミムラカワゲラ成虫の針葉樹および広葉樹の好みについて)。Biology of Inland Waters, Suppl.3 (eds:M.Yoshimura and Y.Takemon)、61-64

119. ISHIKAWA F. Naoto (石川尚人・チューリッヒ工科大学)、TOGASHI Hiroyuki (富樫博幸・東北区水産研究所)、KATO Yoshikazu (加藤義和・総合地球環境学研究所)、YOSHIMURA Mayumi (吉村真由美)、KOHMATSU Yukihiro (神松幸弘・立命館大学)、YOSHIMIZU Chikage (由水千景・総合地球環境学研究所)、OGAWA O. Nanako (小川奈々子・海洋研究開発機構)、OHTE Nobuhito (大手信人・京都大学)、TOKUCHI Naoko (徳地直子・京都大学)、OHKOUCHI Naohiko (大河内直彦・海洋研究開発機構)、TAYASU Ichiro (陀安一郎・総合地球環境学研究所). Terrestrial-aquatic linkage in stream food webs along a forest chronosequence: multi-isotopic evidence. (森林の年代系列に伴う溪流食物網における陸と水の関係). *Ecology*, 97 (5) 1146-1158
120. 吉村真由美. 林相が水生昆虫群集に与える影響 . *昆虫と自然*, 51 (5) 9-12
121. HIGASHIKAWA Wataru (東川航・神戸大)、YOSHIMURA Mayumi (吉村真由美)、YAGI Tsuyoshi (八木剛・人博) & MAETO Kaoru (前藤薫・神戸大). Microhabitat use by larvae of the endangered dragonfly *Sympetrum pedemontanum elatum* (Selys) in Japan. (ミヤマアカネ幼虫の微生息空間利用について). *Journal of Insect Conservation*, 20, 407-416
122. 富樫博幸 (東北区水産研究所)、石川尚人 (チューリッヒ工科大学)、加藤義和 (総合地球環境学研究所)、吉村真由美、神松幸弘 (立命館大学)、由水千景 (総合地球環境学研究所)、大手信人 (京都大学)、徳地直子 (京都大学)、陀安一郎 (総合地球環境学研究所). 森林施業が河川食物網へ及ぼす長期的影響の解明 : 安定同位体比を利用して. *昆虫と自然*, 51 (6) 38-40
123. YOSHIMURA Mayumi (吉村真由美). Lifecycle adaptation of freshwater invertebrates to global warming -focused on stoneflies (温暖化への底生動物の生活史適応 - カワゲラに注目して). *Book of abstract of 33rd SIL (International Society of Limnology) Congress, July 31-August 5 2016 in Torino, Italy*, p215
124. YOSHIMURA Mayumi (吉村真由美)、AKAMA Akio (赤間亮夫). Radioactive contamination of aquatic insects in stream impacted by the Fukushima nuclear power plant accident (福島第一原発事故の放射性物質による水生昆虫への汚染について). *Abstract of 25th International Congress of Entomology, September 25-30 2016 in Orland, USA*, D3849
125. 吉村真由美、赤間亮夫. 福島県における放射能による水生生物の汚染について. *日本陸水学会第 81 回大会講演要旨集*, 81:119
126. 富樫博幸 (東北区水産研究所)、大手信人 (京都大学)、石川尚人 (チューリッヒ工科大学)、加藤義和 (総合地球環境学研究所)、吉村真由美、神松幸弘 (立命館大学)、由水千景 (総合地球環境学研究所)、徳地直子 (京都大学)、陀安一郎 (総合地球環境学研究所). マルチ安定同位体情報を利用した人間活動が河川生態系へ及ぼす影響解明. *昆虫と自然*, 51 (12):33-35
127. 東川航 (神戸大院・農)、吉村真由美、八木剛 (人と自然の博物館)、前藤薫 (神戸大院・農). ミヤマアカネはなぜ減少しているのか～幼虫と成虫の特異な生息環境の解明～. *日本生態学会近畿地区会 2016 年度第 1 回例会, No.1*
128. 吉村真由美、赤間亮夫. 福島県内溪流における水生生物の放射性セシウム動態. 第 64 回日本生態学会大会、P2F211
129. 東川航 (神戸大院・農)、吉村真由美、八木剛 (人と自然の博物館)、前藤薫 (神戸大院・農). 里山の希少種ミヤマアカネの成虫が選好する草原構造の特性. 第 64 回日本生態学会大会、P1D132
130. 関伸一. キレイな島にはトゲがある. *BIRDER*, 30 (4):68-69
131. 関伸一. 茶碗箱の中のアカヒゲ. *BIRDER*, 30 (5):68-69
132. 関伸一. 南から来た行商人. *BIRDER*, 30 (6):68-69

133. 関伸一. シーボルトの勘違い. 図書、808:22-27
134. ANDO Haruko (安藤温子・国立環境研究所)、OGAWA Hiroko (小川裕子・多摩動物公園)、SUZUKI Hajime (鈴木創・小笠原自然文化研究所)、HORIKOSHI Kazuo (堀越和夫・小笠原自然文化研究所)、SEKI Shin-ichi (関伸一)、NAKAHARA Fumiko (中原文子・京都大学)、TAKAYANAGI Mayo (高柳真世・多摩動物公園)、KAWAKAMI Kazuto (川上和人)、ISAGI Yuji (井鷲裕司・京都大学). Genetic structure of the red-headed wood pigeon *Columba janthina nitens*, an endangered subspecies endemic to the Ogasawara Islands, Japan (小笠原諸島固有の絶滅危惧亜種アカガシラカラスバト *Columba janthina nitens* の遺伝的集団構造). Conference program and abstracts of the 2nd International Conference on Island Evolution, Ecology and Conservation: Island Biology 2016, 18-22 July 2016, Angra do Heroismo Azores, Portugal., p.469
135. 関伸一. 大きすぎる島. BIRDER、30 (7):68-69
136. 関伸一. アカヒゲは4畳半がお好き. BIRDER、30 (8):68-69
137. 関伸一. さかい目の島. BIRDER、30 (9):68-69
138. 関伸一. アカヒゲは御札を三枚もっている. BIRDER、30 (10):68-69
139. 関伸一. コマドリが減っている. 全国繁殖分布調査ニュースレター、6:3-4
140. 関伸一. 井の底のアカヒゲ. BIRDER、30 (11):68-69
141. 関伸一. 先島諸島におけるアカヒゲの冬期の分布. Bird Research、12:A47-A54
142. 関伸一. 山地の鳥、コマドリの保全に遺伝情報を役立てる. 森林総合研究所関西支所研究情報、122:2-3
143. 関伸一. あこがれの放浪者. BIRDER、30 (12):68-69
144. 関伸一. ホントウのアカヒゲ. BIRDER、31 (1):66-67
145. 関伸一. アカヒゲのヒゲ. BIRDER、31 (2):66-67
146. 関伸一. アカヒゲは用いるに足らず. BIRDER、31 (3):66-67
147. 関伸一、藤木大介 (兵庫県森林動物研究センター). ニホンジカの採食による森林の下層植生衰退と鳥類群集との関係を広域で評価する. 兵庫ワイルドライフモノグラフ、9: 未定
148. 八代田千鶴. 再造林地におけるシカ被害対策. 森林総合研究所関西支所研究情報、120:2-3
149. 八代田千鶴. 「野生動物の管理システム」書評. 哺乳類科学、56 (1):87-88
150. 八代田千鶴. 「シカ問題を考える」書評. 森林科学、77:57
151. 八代田千鶴. ニホンジカの生物学②栄養. 林業と薬剤、217:1-7
152. 奥村栄朗、藤井栄 (徳島県立農林水産総合技術支援センター)、森一生 (徳島県西部総合県民局)、八代田千鶴、金城芳典 (NPO 法人 四国自然史科学研究センター). 再造林予定地での集中捕獲を目指したニホンジカ利用状況モニタリング. 日本哺乳類学会 2016 年度大会 プログラム・講演要旨集、p.107
153. 八代田千鶴. 山林におけるニホンジカ捕獲個体の行方. 日本哺乳類学会 2016 年度大会講演要旨集、40
154. 荒木良太 (自然環境研究センター)、小泉透、岡輝樹、八代田千鶴、大橋正孝 (静岡県)、早川五男 (NPO 法人若葉)、岩崎秀志 (NPO 法人若葉)、中村大輔 (自然環境研究センター)、小林喬子 (自然環境研究センター). 捕獲計画立案時における対象地域の行動様式情報の必要性. 日本哺乳類学会 2016 年度大会プログラム・講演要旨集

155. 奥村栄朗、藤井栄（徳島県立農林水産総合技術支援センター）、森一生（徳島県西部総合県民局）、八代田千鶴、金城芳典（NPO 法人 四国自然史科学研究センター）。糞粒法と自動撮影カメラによるニホンジカのモニタリング ～再造林予定地における利用状況と捕獲効果の把握～。森林野生動物研究会第 49 回研究大会発表要旨集、p.3-4
156. 八代田千鶴、酒井敦、後藤将太（高知大）、比嘉基紀（高知大）、藤井栄（徳島県農技セ）、森一生（徳島県西部県民局）。森林におけるシカの給餌誘引条件の検討。第 22 回「野生生物と社会」学会大会講演要旨集、109
157. 藤井栄（徳島県農技セ）、森一生（徳島県西部県民局）、八代田千鶴、奥村栄朗。林業事業者への普及を目的とした囲いワナによる林業被害対策としてのシカ捕獲。第 22 回「野生生物と社会」学会大会講演要旨集、106
158. 平田滋樹（長崎県）、山端直人（三重県農研）、大橋正孝（静岡県）、小寺祐二（宇都宮大学）、竹田努（宇都宮大学）、八代田千鶴。野生動物管理におけるコンプライアンスの課題。第 22 回「野生生物と社会」学会大会講演要旨集、50
159. 八代田千鶴。シカ捕獲体制の構築と課題。森林科学、79:6-9
160. 大谷達也、藤井栄（徳島県）、森一生（徳島県）、八代田千鶴、宮本和樹、米田令仁、奥村栄朗、酒井敦。新植地でのシカ捕獲によるスギ・ヒノキ苗木食害の軽減効果。第 128 回日本森林学会大会講演要旨集、T5-10
161. 奥村栄朗、藤井栄（徳島県立農林水産総合技術支援センター）、森一生（徳島県西部総合県民局）、八代田千鶴、金城芳典（NPO 法人四国自然史科学研究センター）。人工林皆伐跡地におけるニホンジカ集中捕獲を目指した利用状況モニタリング（続報）。日本森林学会大会学術講演集、128:177
162. 八代田千鶴、小泉透。シカの給餌誘引に及ぼす下層植生の影響。第 128 回日本森林学会大会学術講演集、176
163. 衣浦晴生。針葉樹の穿孔性害虫第 1 回スギノアカネトラカミキリ。森林総合研究所関西支所研究情報、120:4
164. 石塚忠範（六甲砂防事務所）、宮崎元紀（六甲砂防事務所）、久保正和（六甲砂防事務所）、池田欣子（アジア航測）、山賀由喜（アジア航測）、梅村裕也（アジア航測）、磯田真紀（アジア航測）、衣浦晴生。六甲山系グリーンベルトにおけるナラ枯れ防除対策の取り組みについて。平成 28 年度砂防学会研究発表会概要集、B300
165. 福田秀志（日福大健康）、小堀英和（樹木医会愛知）、衣浦晴生。殺菌剤の高濃度少量予防注入によるカシノナガキクイムシ（*Platypus quercivorus*）の羽化脱出抑制効果。樹木医学研究、20:3
166. 衣浦晴生。針葉樹の穿孔性害虫第 2 回ヒバノキクイムシ、ヒノキノキクイムシ。森林総合研究所関西支所研究情報、121:4
167. 所雅彦、北島博、加賀谷悦子、衣浦晴生、後藤秀章、近藤洋史、栗生剛（和歌山県）、大谷栄徳（和歌山県）、岡田充弘（長野県）、齊藤正一（山形県）、山中武彦（農研機構）、吉濱健（サンケイ化学）。大量のおとり丸太でナラ枯れ対策。環境報告書 2016、P32
168. 所雅彦、北島博、加賀谷悦子、衣浦晴生、後藤秀章、近藤洋史、栗生剛（和歌山県）、大谷栄徳（和歌山県）、岡田充弘（長野県）、齊藤正一（山形県）、山中武彦（農研機構）、吉濱健（サンケイ化学）。おとり丸太の大量集積によるナラ枯れ防除。森林総合研究所第 3 期中期計画成果集、P52
169. 衣浦晴生、小南裕志、山本遼平（京大院地球環境）。カシノナガキクイムシ被害木の樹液流特性（2）—夏季から翌春季間の変化—。樹木医学会第 21 回大会講演要旨集、22
170. 衣浦晴生。針葉樹の穿孔性害虫第 3 回スギカミキリ。森林総合研究所関西支所研究情報、122:4
171. 所雅彦、北島博、加賀谷悦子、衣浦晴生、後藤秀章、近藤洋史、栗生剛（和歌山県）、大谷栄徳（和歌山県）、岡田充弘（長野県）、齊藤正一（山形県）、山中武彦（農研機構）、吉濱健（サンケイ化学）、猪野正明（サンケイ化学）、廣田智美（サンケイ化学）、鶴田英人（サンケイ化学）。広葉樹資源の有効利用を目指したナラ枯れ低コスト防除技術。JATAFF ジャーナル、1 (5):59

172. 衣浦晴生. 針葉樹の穿孔性害虫第4回  ニホンキバチ、オナガキバチ. 森林総合研究所関西支所研究情報、123:4
173. 衣浦晴生、法眼利幸 (和歌山県林試)、大谷栄徳 (和歌山県林試)、竹内隆介 (和歌山県林試). 薬剤樹幹注入したヒノキにおけるスギノアカネトラカミキリの生育 II . . . 注入量の違いによる駆除効果. 第128回森林学会大会要旨集、P2-186
174. 法眼利幸 (和歌山県林試)、大谷栄徳 (和歌山県林試)、竹内隆介 (和歌山県林試)、衣浦晴生. 和歌山県におけるスギノアカネトラカミキリのシイ類の花での捕獲. 第128回森林学会大会要旨集、P2-185
175. 山本遼平 (京都大学大学院地球環境学舎)、吉川彬 (京都大学大学院地球環境学舎)、壇浦正子 (京都大学大学院地球環境学舎)、吉村謙一 (京都大学農学部)、小野田雄介 (京都大学農学部)、衣浦晴生、小南裕志. 京都府南部の落葉広葉樹林におけるナラ枯れ被害が生態系に与える影響の評価 - (1) ナラ枯れ被害の進行と空間分布特性 -. 第128回森林学会大会要旨集、P1-096
176. 長谷川絵里. 世界に広がるナラタケ属の種分化. おいしいきのこ毒きのこハンディ図鑑 (主婦の友社)、70-71
177. 吉丸博志、勝木俊雄、岩本宏二郎、加藤珠理、松本麻子、長谷川絵里、佐橋憲生、秋庭満輝、伊東宏樹、石原誠、高畑義啓、河原孝行、赤間亮夫、阿部恭久 (日本大学)、石尾将吾 (住友林業)、中村健太郎 (住友林業). サクラ栽培品種の分類体系の再編と遺伝資源管理への貢献. 森林総合研究所第3期中期計画成果集、86-87
178. Ned B. Klopfenstein (United States Department of Agriculture Forest Service, Rocky Mountain Research Station)、Jane E. Stewart (Colorado State University)、OTA Yuko (太田祐子・日本大学)、John W. Hanna (United States Department of Agriculture Forest Service, Rocky Mountain Research Station)、Bryce A. Richardson (United States Department of Agriculture Forest Service, Rocky Mountain Research Station)、Amy L. Ross-Davis (United States Department of Agriculture Forest Service, Rocky Mountain Research Station)、Rubén D. Elías-Román (Universidad de Guanajuato)、Kari Korhonen (Isontammentie 90, FI-02400 Kirkkonummi, Finland)、Nenad Keča (University of Belgrade)、Eugenia Iturritxa (Neiker Tecnalia, Basque Institute for Agricultural Research and Development)、Dionicio Alvarado-Rosales (Instituto de Fitosanidad Fitopatología)、Halvor Solheim (Norwegian Institute of Bioeconomy Research)、Nicholas J. Brazee (University of Massachusetts)、Piotr Łakomy (Poznan University of Life Sciences)、Michelle R. Cleary (Swedish University of Agricultural Sciences)、HASEGAWA Eri (長谷川絵里)、KIKUCHI Taisei (菊地泰生・宮崎大学)、Fortunato Garza-Ocañas (Universidad Autónoma de Nuevo León)、Panaghiotis Tsopelas (NAGREF-Institute of Mediterranean Forest Ecosystems)、Daniel Rigling (Swiss Federal Research Institute)、Simone Prospero (Swiss Federal Research Institute)、Tetyana Tsykun (Swiss Federal Research Institute)、Jean A. Bérubé (Canadian Forest Service)、Franck O. P. Stefani (Agriculture and Agri-Food Canada)、Saeideh Jafarpour (University of Tehran)、Vladimír Antonín (Moravian Museum)、Michal Tomšovsky (Mendel University in Brno)、Géral I. McDonald (United States Department of Agriculture Forest Service, Rocky Mountain Research Station)、Stephen Woodward (University of Aberdeen)、Mee-Sook Kim (Kookmin University). Insights into the phylogeny of Northern Hemisphere *Armillaria*: Neighbor-net and Bayesian analyses of translation elongation factor 1- α gene sequences (北半球のナラタケ属の系統発生についての見解: 翻訳伸長因子 1- α の配列の Neighbor-net 及びベイズ解析). *Mycologia*, 109, doi: 10.1080/00275514.2017.1286572
179. 河原孝行、吉丸博志、松本麻子、勝木俊雄、加賀谷悦子、長谷川絵里. サクラがもっと好きになる. 林野、120:3-7
180. 小高信彦、久高将洋 (Yambaru Green)、大城勝吉 (Yambaru Green)、中田勝士 (環境省・やんばる)、高嶋敦史 (琉大・農)、城間篤 (向陽高)、渡久山尚子 (東村博)、宮本麻子、齋藤和彦、八木橋勉. 沖縄島北部やんばる地域の固有鳥類ノグチゲラ・ヤンバルクイナ・ホントウアカヒゲの2007年から2016年における繁殖期の分布回復傾向について. 日本鳥学会2016年度講演要旨集、104

181. 宮城邦昌 (元在那覇奥郷友会長)、島田隆久 (元国頭村奥区長)、齋藤和彦. 沖縄島国頭村奥の伝統的地名. 沖縄大学地域研究所彙報、11:7-80
182. 齋藤和彦. 高精度 GNSS ナビを活用した調査区画の設置. 森林総合研究所関西支所研究情報、123:1-2
183. 齋藤和彦. 地域の歴史と文化を刻むやんばるの森. 季刊森林総研、36:4-5
184. 齋藤和彦. 沖縄県国頭村の保安林が持つ近世琉球の『抱護』的な特徴. 第 128 回日本森林学会大会学術講演集、p.98
185. 阿部真、小高信彦、高嶋敦史 (琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター)、安部哲人、齋藤和彦、正木隆. やんばる固有種オキナワセッコクの着生木選択. 第 128 回日本森林学会大会プログラム、p244 (P2-079)
186. 田中邦宏、斉藤和彦、近口貞介、榎山真司. 遠藤天然林スギ択伐林収穫試験地 (岡山県鏡野町) 定期調査報告 - 内陸型気候地域に位置するスギ天然林択伐林における林況調査 -. 森林総合研究所関西支所年報、37-38
187. 田中邦宏、斉藤和彦、近口貞介、榎山真司. 白見スギ人工林収穫試験地 (和歌山県新宮市) 定期調査報告 - 無間伐区の設定について -. 森林総合研究所関西支所年報、39-40
188. 田中邦宏、斉藤和彦、近口貞介、榎山真司. スギ人工林における下層間伐区と上層間伐区の成長経過の違い. 第 128 回日本森林学会大会学術講演集、239
189. 田中真哉、當山啓介 (東京大学). 「森林利用学会&森林計画学会合同若手セミナー」実施報告. 森林計画学会誌、49 (1) :61-63
190. 川村健介 (国際農林水産業研究センター)、内田諭 (国際農林水産業研究センター)、田中真哉、牧雅康 (東北工業大学)、秋山侃 (岐阜大学). ハイパースペクトル情報から広域 2 バンドの組み合わせを探索する Moving Window-Normalized Difference Spectral Index (MW-NDSI) の開発: 葉面積指数 (LAI) の事例. システム農学会 2016 年度春季大会講演要旨集、37-38
191. 小谷英司、鷹尾元 (JIRCAS)、田中真哉、細田和男、西園朋広、古家直行、北原文章、家原敏郎、山田祐亮、金森匡彦 (日林協). 高・低密度航空レーザーデータによるスギ林本数密度推定. 写真測量学会 H28 年次学術講演会発表論文集、pp.73-74
192. TANAKA Shinya (田中真哉)、KAWAMURA Kensuke (川村健介・国際農林水産業研究センター)、MAKI Masayasu (牧雅康・東北工業大学)、MURAMOTO Yasunori (村元靖典・岐阜県農業技術センター)、YOSHIDA Kazuaki (吉田一昭・岐阜農林事務所)、AKIYAMA Tsuyoshi (秋山侃・岐阜大学). Spectral index for quantifying leaf area index of winter wheat by field hyperspectral measurements: A case study in Gifu prefecture, central Japan. (野外ハイパースペクトル計測による冬コムギの葉面積指数の定量化のための分光指標: 岐阜県におけるケーススタディ). Recent advances in remote sensing for crop growth monitoring (MDPI, 386 頁)、pp.55-74 (Printed edition of the special issue published in remote sensing)
193. KODANI Eiji (小谷英司)、TAKAO Gen (鷹尾元・JIRCAS)、TANAKA Shinya (田中真哉)、HOSODA Kazuo (細田和男)、NISHIZONO Tomohiro (西園朋広)、FURUYA Naoyuki (古家直樹)、KITAHARA Fumiaki (北原文章)、IEHARA Toshiro (家原敏郎)、YAMADA Yusuke (山田祐亮)、KANAMORI Masahiko (金森匡彦・日林協). Comparative analyses of high and low density LiDAR data for forest stand volume and mean height in man-made Sugi coniferous forest area (スギ人工林での高・低密度航空 LiDAR データを用いた林分材積と平均樹高推定式の比較分析). IUFRO International Symposium FORCOM/SFEM/2016 Abstract、pp.15
194. 田中真哉. 地球観測衛星の画像を利用した森林資源の広域評価. 季刊森林総研、35:10-11

195. 田中真哉、小谷英司、鷹尾元（国際農林水産業研究センター）、細田和男、金森匡彦（日本森林技術協会）、佐野真琴（佐野真）。航空機 LiDAR データを用いた立木密度の推定：UAV 空撮画像による上層木本数の検証。日本森林学会大会学術講演集、128:P2-027
196. 小谷英司、田中真哉、西園朋広、細田和男。航空機 LiDAR による平均林冠高法の比較分析。第 128 回日本森林学会大会学術講演集、1pp.
197. 今井伸夫（東農大・森林）、安宅未央子（学振 PD）、Holger Schaefer（京大・地環）、吉村謙一（京大・農）、小南裕志。菌根菌糸の呼吸速度測定手法の開発。第 64 回日本生態学会大会講演集、P2-N-395
198. 孫麗娟（京大農）、安宅未央子（学振 PD）、小南裕志、吉村健一（京大農）。Relationship between fine-root exudation and respiration of two *Quercus* species in a Japanese temperate forest（日本の温帯林の 2 種の広葉樹における根浸出物と根呼吸量の関係）。Tree Physiology、doi: 10.1093/treephys/tpx026